

令和2年度生駒市立病院管理運営協議会第2回会議録

- 日 時 令和2年12月2日（水）午後8時00分から午後9時20分
- 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター

■ 出席者

- (1) 会 員 城谷 学、山上 正仁、佐野 いづみ、岡島 保弘、森岡 文夫、藤澤 清二、浅岡 弥生
- (2) 事務局 【生駒市】山本副市長、古川特命監、近藤福祉健康部長、石田福祉健康部次長、桐坂地域医療課課長補佐、吉村病院事業推進係長、奥野病院事業推進係主査
【指定管理者】辻川看護部長、岸田事務部長、吉松総務課長

- 傍聴者数 2名
- 会議の公開・非公開の別 公開
- 会議の内容

1 開会

【事務局(市)】 定刻になりましたのでただいまから「令和2年度生駒市立病院管理運営協議会第2回会議」を開催いたします。本日の会議は小紫市長、前野会員が所用のため欠席されており、遠藤院長も診察のために遅れて出席されるとのことですが、過半数の会員にご出席いただいておりますので「生駒市立病院管理運営協議会要綱」第6条第3項の規定により会議は成立しております。なお、市長の代理として山本副市長が出席させていただいております。また、同要綱第7条の規定により本会議は公開としております。

本日の会議では会議録作成のため録音させていただいておりますので、ご了承の程よろしくお願いいたします。

次に本日の配布資料について確認させていただきます。会議次第、令和2年度生駒市立病院中間報告書(案)の2点になります。全ておそろいでしょうか。

2 会議内容の確認

【事務局(市)】 生駒市立病院管理運営協議会は市立病院の管理運営に関する事項について会員の皆様方の意見を反映させることで、健全な管理運営及び市民参加の病院を実現することを目的として開催されます。本会議において皆様からのご意見及びご提案を求める事項につきまして、生駒市立病院管理運営協議会要綱に定められており、頂いたご意見を元にPDCAサイクルを意識した市立病院の継続的な業務の改善及び健全な管理運営を図って参ります。

それでは、会議次第3の「案件」に移らせて頂きます。以後の進行につきましては、要綱第6条の規定により会長が議長となりますが、市長が所用のため欠席しており、遠藤院長も診察のため遅れられるとのことですので、進行に関してどのようにさせていただきますでしょうか。

【藤澤会員】 本日は山本副市長が出席されていますので、山本副市長に議長をお願い

したいと思います。

【事務局(市)】 ご意見ありがとうございます。藤澤会員から山本副市長を議長にとご意見をいただきましたがよろしいでしょうか。

【事務局(市)】 ありがとうございます。それでは、山本副市長、お席の移動をお願いいたします。

3 案件

【山本副市長】 それでは、ご指名をいただきましたので、議長を務めさせていただきたいと思います。市長が、所用がございまして参加できないので、私が代わりに努めさせていただくことになりました。どうぞよろしくをお願いいたします。

今日も先程テレビを見ていますと全国のコロナ患者が減らないということで、488人の重症者がおられます。奈良県内でも最初33人という話でしたが、1時間程前に34人と訂正がありました。そういう中でこの会議を開催させていただくこととして医療関係の皆様、城谷先生、山上先生、そして市立病院の医療を頑張っている皆様方におかれましては本当にお礼を申し上げます。皆様方のおかげで市民の安全・安心が守られているのだと思っております。まだまだ簡単にコロナに打ち勝つことはできないと思いますが、一丸となって取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、今日の会議時間につきましては概ね1時間30分を予定しております。9時半くらいまでには終了したいと思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。

早速案件に入りたいと思います。3の案件の令和2年度生駒市立病院中間報告書案について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局(市)】 それでは、令和2年度生駒市立病院中間報告書についてご説明します。なお、今回の報告から様式を改めて、A3版からA4版の見開きに変更いたしました。書式自体の変更はありませんので、よろしくお願い致します。表紙をめくっていただきまして、右ページに目次があります。さらに1枚めくっていただきまして1ページ、2ページをお願いいたします。

表の横軸ですが一番左端が病院事業計画の欄、右に向かって順に年度事業計画、中間報告、そして、2ページ左側が中間報告の補足説明、右端が取組の評価・課題の欄となっております。次に表の縦軸ですが1ページから8ページが診療科目・病床数等の基本項目、9ページ以降が病院事業計画のコンセプトごとに区分して記載しております。なお、事前に会員の皆様方にお配りした資料に誤りがありました。お手元に正誤表を準備いたしましたのでご確認願います。

13ページ中間報告欄の一番下の行、PCR検査数及び抗原検査数です。

集計誤りにより正誤表のとおり件数を修正いたしますので、どうぞよろしくお願い致します。

続いて14ページ取組の評価・課題の5項目めになります。従前は「面会を制限する中でお見舞いメールの運用等、市民の要望に応える取り組みが進めている」とあり

ますが、正しくは「面会を制限する中でお見舞いメールの運用等、市民の要望に応える取り組みを進めている」です。お詫びして訂正いたします。申し訳ありませんでした。

それでは、資料の説明をいたします。この資料の中間報告・補足説明の欄につきましては病院から、取組の評価・課題の欄につきましては生駒市から説明いたします。それでは病院から説明をお願いいたします。

【事務局(指定管理者)】 市立病院の岸田でございます。それでは令和2年度中間報告書についてご説明します。1、2ページの「診療科目」です。計画どおり診療科目につきましては、16診療科です。また、既存の診療科、小児科、内科、消化器内科、形成外科については常勤医師の確保を図りました。

続いて3、4ページの「病床数」です。4ページの補足説明欄にありますように1日平均病床利用率は48パーセント、1日最大稼働病床数は141床、病床利用率は67.1パーセントとなっております。

次に5ページ、6ページをご覧ください。「人員体制」です。9月末現在の常勤医師は24名となっております。常勤医師に関してはグループ内転勤により内科が1名、医局人事により形成外科1名、勤務希望者の募集等により消化器内科1名、小児科1名、形成外科2名が入職しました。また、看護師は131名、その他といたしまして薬剤師、理学療法士等を合わせて116名、合計271名となっております。

次に7、8ページをご覧ください。「患者数」です。入院患者数につきましては1日平均100.1人、外来患者数は1日平均183.9人となっております。補足説明欄にありますように年度計画と比較しますと、入院患者数は76.0%、外来患者数は86.2%の達成率となっております。

また、入院患者数の増減については診療科別で増減はありますが、合計しますと前年度と比べて、入院で1日平均26.7人の減、外来で25.2人の減となっております。

次に9ページから12ページをお願いします。「質の高い医療の提供」です。手術件数は全科目の合計で645件となり、前年度と比べて11件の減となっております。また、分娩件数につきましては82件となっております。なお、今年度から市の産後ケア事業へ参加いたしました。

次に11、12ページをご覧ください。いわゆる主要疾病4疾病ですが、がんにつきましては地域がん診療連携拠点病院との連携のもと治療体制を確保しております。脳卒中につきましては近畿大学奈良病院、県総合医療センター等との連携のもと、早期に検査・診断・治療できる体制を確保しております。急性心筋梗塞につきましては奈良県総合医療センターと連携のもと、緊急の心臓カテーテル検査・PCIが24時間365日可能な体制を確保しております。糖尿病につきましては、かかりつけ医との連携のもと治療を実施しております。

また、患者満足度の向上のため退院時に市立病院独自で患者アンケート調査を実施いたしました。さらにご意見箱等の内容に対する対応につきましては、補足説明欄に記載しているとおりです。

13、14ページをご覧ください。「医療における安全管理に対する取組」です。医療安全管理委員会を毎月1回、医療安全カンファレンスを毎週1回開催するなど、インシデント・アクシデントに関する事例の分析などを行い、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めました。

院内感染対策としまして院内感染対策委員会を毎月1回開催するとともに、ICT

合同カンファレンスをグループ病院と合同で偶数月に行い、ICTラウンドを毎週1回、感染勉強会を7月に開催し、院内感染防止活動に取り組みました。さらに、院内感染対策に係る地域医療連携といたしまして、合同カンファレンスに参加しました。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、4月14日以降5階東病棟において疑似症患者を受け入れ、PCR検査、抗原検査も実施しております。

また、補足説明欄にありますとおり4月1日以降帰国者・接触者外来を立ち上げ、面会制限を実施したうえで、お見舞いメールの運用等を実施しております。

15、16ページをご覧ください。「地域完結型の医療提供体制の構築への寄与」についてです。在宅支援機能の充実として医療連携登録医は9月末時点で66施設、81名となっております。補足説明欄記載のとおり、そのうち市内クリニックが29施設、35名でこれは市内のクリニックの32.6%となります。また、協力医療機関連携施設は9月末時点で61施設となっております。

また、生駒市医療介護連携ネットワーク協議会在宅医療介護推進部会に地域医療連携室の職員が会員として参加しております。

次に17、18ページをご覧ください。「周辺の他の医療機関との連携」です。医療機器のオープン利用として、周辺の医療機関に市立病院のMRIやCTなどを利用していただいております。利用件数はMRIが82件、CTが34件、内視鏡が1件、エコーが10件の実績となっております。

紹介、逆紹介についてですが、紹介率は34.8%、逆紹介率は15.2%、補足説明欄にありますとおり、市立病院が市内医療機関から紹介を受けた割合、すなわち、市内医療機関の市立病院利用率は78.7%となっております。

次に19、20ページをご覧ください。「救急医療の充実」について、救急受入件数が890件、救急応需率は94.1%となっております。補足説明欄ですが、救急車以外で当直時間帯に来られた患者様については、ウォークインとして集計しております。1,945人を受け入れており、月平均324.2人となっております。

21、22ページをご覧ください。「救急に対する人員体制」につきましては、1名の時間外担当医と1名の常勤当直医の2名、外来看護師2名、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員それぞれ1名の当直体制をとりました。

休日夜間の診療レベルは、CTやMRI、X線、血液検査全て対応可能となっております。加えて心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術にも対応可能な体制を整えております。

次に23、24ページをご覧ください。「小児医療の充実」です。常勤医師2名体制を目指し、平成30年1月から着任した医師に加えて、令和2年7月に1名確保し、常勤医師2名体制になりました。また北和小児科二次輪番体制への参加を目指し、北和地区小児科二次輪番体制参加病院連絡会に出席いたしました。

次に「災害時医療の確保」につきまして、8月19日に消防訓練を実施し、4月28日と5月27日には、市主催の新型コロナウイルス感染症に関する今後の対応等の意見交換会に参加しました。

「予防医療の啓発」では、疾病予防機能の強化として、市民の疾病予防を目的として医療講演会を22講座開催し、243人の参加がありました。また各種健診につきましては、補足説明欄に記載しておりますように3,313件となっており、前年同期と比較して178件増加しております。

25、26ページをご覧ください。「市民参加による運営」の補足説明欄にありますとおり、5月31日開催の生駒市病院事業推進委員会と7月30日開催の生駒市立病院管理運営協議会について、記載しております。

「環境に配慮した運営」では、市の環境マネジメントオフィスの取組みとして、資源ごみの分別回収を強化するとともに院内での省エネルギー化に努めました。

最後に27ページをご覧ください。収支について説明します。医業収入と医業費用を差し引いた医業利益は、計画のマイナス3,064万6千円に対してマイナス1億5,598万3千円であり、計画に対してマイナス1億2,533万7千円になっております。

医業利益からその他費用、医業外収益、医業外費用を差し引きしました経常利益につきましては、計画のマイナス1億4,908万円に対してマイナス2億7,173万4千円であり、計画に対してマイナス1億2,265万4千円となっております。

説明は以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

【山本副市長】 それでは続きまして、取組の評価・課題について市の方から説明をお願いします。

【事務局(市)】 それでは続きまして、取組の評価・課題についてご説明申し上げます。資料を戻っていただきまして、1、2ページをお願いします。「診療科目」では「専門外来」の取組の評価としまして、上から2項目、「質の高い医療の提供を目指し、特定の疾患や症状について専門的な診療・治療を行う専門外来が定着してきている」。課題として、「今後も市内の医療ニーズや患者動向を注視しながら、常勤医師の確保やさらなる病病連携の推進など質の高い医療の提供を目指すとともに、引き続きより広く専門外来の設置を目指していく必要がある」としております。

次に3、4ページをお願いします。「病床数」の評価としまして、「7対1看護基準が維持されており、手厚い看護体制が引き続き取られている」。また、2項目としまして、「新型コロナウイルス感染症疑い患者の積極的な入院受け入れにより、地域のコロナ対応に貢献できている」としております。

課題としまして、「病床利用率の落ち込みの主な原因は、新型コロナウイルス感染症の影響の他、整形外科常勤医師の不在によるものであることから、不足する診療科の常勤医師の確保に引き続き努める必要がある」。また、「小児科常勤医師を2名に増員できたことから、北和小児科二次輪番体制への参加をはじめ、休日夜間応急診療所の小児二次救急医療体制のバックアップ機能をさらに充実する必要がある」としております。

5、6ページをお願いいたします。「人員体制」の評価といたしまして各職種の常勤職員を増員したことをあげており、課題といたしまして「救急医療・入院医療を充実させるため、引き続き不足する脳神経外科及び整形外科の常勤医師を確保する必要がある」としております。

7、8ページをお願いいたします。「患者数」の評価としまして、3項目めですが、「LINE公式アカウントにおいてお見舞いメール及びオンライン医療講演会の申込み等ができることにより、イベントの周知などの取組みが市民により認識しやすい方法で実施されている」としております。課題といたしまして「入院患者数、外来患者数ともに計画を下回っているが、新型コロナウイルス感染症の対応を強化するために、不足する常勤医師の確保に努め、地域の医療機関との病病連携及び病診連携をより一層進める必要がある」としております。

続きまして9ページから12ページの「質の高い医療の提供」です。10ページの評価といたしまして2項目めでの「市の産後ケア事業に参入することで、産後の授乳指導・育児相談や母子のケア等を行い、母親の育児等を支援した」。3項目めとしま

して「質の高い医療提供、医療の効率化、透明化を実現するため、DPCを導入した」としております。課題といたしまして「整形外科において手術対応が可能な常勤医師を確保する必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、徹底した感染管理に努めながら、質の高い医療提供体制を継続して整備する必要がある」としてしております。

引き続き11、12ページをお願いいたします。「がん」、「脳卒中」、「急性心筋梗塞」及び「糖尿病」につきまして、他病院と十分な連携が取れていることを評価とさせていただきます。

続きまして13、14ページをお願いいたします。医療安全管理に対する取組につきましては、主に新型コロナに対する取組みについて、評価として3項目め以降「新型コロナウイルス感染症疑似症患者を受け入れる際には、動線を明確に区分するなど院内感染対策が十分に行われている」とし、4項目めとして「新型コロナウイルス感染症疑似症患者を受け入れるに際して、休日夜間応急診療所や市内医療機関等と連携を密にし、市内医療機関等のバックアップの機能を果たしている」。そして最後5項目めとして、「面会を制限する中でお見舞いメールの運用等、市民の要望に応える取り組みを進めている」としてしております。課題といたしまして「今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えて、院内における感染管理をより一層徹底するとともに、引き続き奈良県をはじめとする関係機関と情報交換しながら、新型コロナウイルス感染症に臨機応変に対応する必要がある」としてしております。

15、16ページをお願いします。「地域完結型の医療体制構築への寄与について」です。評価といたしまして「在宅患者の増悪時の受入れなど、後方支援病院の役割を果たすため、市立病院と地域の医療機関等との連携が進められている」としてしております。また、3項目めですが「医師、専任の看護師、専従のメディカルソーシャルワーカーによる入退院支援チームの活動などにより、退院後も切れ目のないケアを提供できている」としてしております。課題といたしまして「在宅支援機能をさらに充実させるために、市内の医療連携登録医を増やすことにより、地域の医療機関との連携強化をより一層図る必要がある」としてしております。

17、18ページをお願いします。評価といたしまして「地域の医療機関への情報提供等訪問回数が大幅に増加しており、地域の医療機関への周知の取り組みが強化されている」。また、「入退院支援加算件数が増加しており、退院困難患者の早期抽出、入院早期の患者・家族との面談、多職種連携カンファレンスを実施するなど、入院早期から退院後の生活を見据えた医療と介護の切れ目のない支援が推進されている」としてしております。課題といたしましては「医師会との連携は不可欠であり、引き続き入会審査に対応する必要があるため、地域医療機関との病病・病診連携の推進を図る必要がある」としてしております。

19、20ページをお願いします。「救急医療の充実」です。評価といたしまして2項目めですが、「ゴールデンウィーク以降、休日・夜間の新型コロナウイルス感染症疑い患者の対応について、休日夜間応急診療所との連携体制を構築した」としてしております。課題といたしましては「市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制のバックアップに努めており、引き続き関係機関へ協議を進めることで輪番体制への参加を実現していく必要がある。小児科常勤医師を増員したことから、北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、医療体制を整備する必要がある」としてしております。

21、22ページをお願いします。評価といたしまして「当直可能な医師2名、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員による24時間365日の救急受入体制が維持されている」としてしております。課題といたしまして「当直・オンコール体

制に参加できる脳神経外科及び整形外科の常勤医師の確保に努める必要がある」として
しております。

23、24ページをお願いします。3つの段に分かれておりますが、上段の「小児
医療の充実」です。評価といたしまして「当院産婦人科と連携し、出生児の診察や1
ヶ月健診を担当し、安心して出産できる体制を構築している」としております。課題
といたしまして「小児救急の実施に向けて、引き続きさらなる常勤医師の確保に努め
る必要がある」としております。

中段の「災害時医療の確保」です。評価といたしまして2項目ですが「新型コロナ
感染症に関する意見交換会に参加して連携体制について協議し、休日夜間応急診療所
や市内医療機関等のバックアップ機能を果たしている」としております。

最後、下段の「予防医療の啓発」につきましては、評価といたしまして2項目め
ですが、「市立病院として市民の健康づくりや疾病予防を図るため、コロナ禍において
も可能な限りオンライン医療講演会を開催するなど、市民との交流、健康づくりの推
進に努めている。」としております。課題といたしまして「市民の健康づくりや疾病
予防を促進するために、コロナ禍が収まった折には、院内講演の充実に加え、自治会
や学校、企業、各種団体・グループ等対象を広げて出張講座を実施し、より一層広域
的に市民に啓発する必要がある」としております。

25、26ページをお願いします。「市民参加による運営」につきましては、2項
目めですが、本管理運営協議会の運営について評価しております。中段及び下段の「環
境に配慮した運営」及び「院内保育所」につきましては、ご覧のとおりです。

説明は以上です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【山本副市長】 ありがとうございます。それではただ今から意見交換に入りたいと
思います。従来と同じように項目ごとに意見を述べていただきたいと思います。まず、
1ページ目ですが、診療科目につきまして会員の皆様のご意見をお伺いしたいと思
います。いかがですか。

診療科目についてございませんか。ないようですので次の項目に移って参りますが、
最後に全体を通してのご意見をいただく時間を取りますので、後から気が付かれた場
合はその時をお願いを申し上げたいと思います。それでは3ページ目、病床数につ
きましてご意見いかがでしょうか。特にございませんか。それでは、次にいきたく
思います。5ページ目をお開けいただきたいと思います。人員体制につきましてはい
かがでしょうか。ないようでしたら次にいきます。患者数につきましてはいかが
でしょうか。

はい、城谷会員お願いいたします。

【城谷会員】 どの病院もそうですが、私どもの近畿大学奈良病院では、新型コロナ
ウイルス感染症のため、入院に来られる患者様、外来に来られる患者様、それから収
益の観点から見ても、いずれの病院でも最低1割、それから急性期の病院だと2割ほ
ど減益という状況です。診療所の先生方も大変ですが、診療所の先生方のところに患
者様が来られないとその次もないわけですから、厳しい状況が続いているというの
はあると思います。これはどの病院も共通の状態です。

それから、小児科のスタッフを集めることに努力されているのは非常に大事なこと
です。当初の方針もそうだったと思いますけど、新型コロナが流行することによって、
皆さんが感染防御にすごく注意を払うということが起こりまして、実は世の中で小児
科の感染症があまり起こらない、罹患率が減っているという状況もありますので、こ

の辺が全て経営という観点からすると厳しいのではないかなと考えます。以上です。

【山本副市長】 ありがとうございます。全般的な医療現場の状況等を説明していただいたのですが、この市立病院の現状につきまして、病院としてどのように思っておられますか。

【事務局(指定管理者)】 院長が遅れておりますので、代わりにお答えさせていただきます。やはり当初、4月以降外来が少ないということは、外来からの入院も少なくなります。入院患者も4～7月は1日平均が100人を切りまして、8月くらいから100人を超えてきたというのが現状です。手術等も学会から自粛と出ていましたので春先は少なかったのですが、7～9月と徐々に回復してきまして前年度を超えるくらいの件数はこなしております。待てる手術は待っていただいたような感じですが、救急手術も含めて特に11月は大分緊急手術、夜中の手術もございまして、術前検査も含めて一応当院については、入院患者様は11月中から抗原検査をできる限りやっています。予定入院については、PCR検査を併せて行うという体制を取っております。

【山本副市長】 ありがとうございます。この患者数のところで他にございますか。森岡会員お願いいたします。

【森岡会員】 入院と外来の患者の関係でお聞きしたいのですが、患者数が減っているのはコロナの問題で、一般的にどこの病院でも減っています。特にその中で整形外科の問題というのは、市立病院の特徴的なものかと思っております。整形外科の外来の患者数と、入院の方は0になっていますが、いつまでこういう形になるのか。これが通常と考えているのか、病院として今後どうするのか。このままいくのかをちょっとお聞かせいただけませんかでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 常勤医師の募集は脳神経外科も含めて引き続き行ってまいります。今日も関西地区の17施設集まった中で、グループ内も含めて整形外科、脳神経外科、特に生駒市立病院についての話を、理事長、副理事長も同席していただいております。副理事長も岸和田徳洲会病院で関西の様子もご存じなので、一番困っているのは整形外科、脳神経外科というのは認識をいただいております。各病院の医師対策も協力をいただけるよう話をしてまいりました。

【山本副市長】 ありがとうございます。今の説明で良いでしょうか。確かに整形外科につきましては、要望をかなり聞きますので何とか早いうちに常勤医師が見つかってくれたらと思っております。他に患者数のところでいかがでしょうか。浅岡会員お願いいたします。

【浅岡会員】 整形外科の常勤医師が入っていただくのがベストなのですが、例えば非常勤で、手術をしていただけるような医師、目玉になるような医師が、1週間に1、2回来ていただける。その医師をめぐって皆さん来ていただく、手術をしていただくというのは可能なのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 私的な意見ですが、基本的に非常勤の医師に、常勤医師がない中で手術をさせるということは、術後管理がありますので無理と思います。常勤

医師がいて、他から先生を呼ぶというのではありませんけれど、全く常勤医師がいない中で非常勤の医師、他の医師が診るといのは厳しいと思います。

【山本副市長】 いかがでしょうか。思いは非常に分かりますが、常勤医師の方ができるだけ早く見つかってほしいと思います。他はいかがでしょう。ないようでしたら、次のページに行かせていただきたいと思います。

9ページから病院の基本方針の新病院のコンセプトのところに入っていきたいと思います。まず9ページから12ページの中で、質の高い医療の提供ということですが9ページ、10ページのところで何かご質問がございますか。ありませんか。11ページ、12ページのところはいかがでしょう。ないでしょうか。

続きまして、13ページ、14ページの医療における安全管理に対する取組みというところです。この点に関しまして何かご意見はありますか。

城谷会員お願いいたします。

【城谷会員】 1つだけ質問をさせていただきますが、この13ページの3列めで言うと、PCR検査数と抗原検査数ですが、これはどういう使い分けで振り分けをされているのでしょうか。検体を取りにくいとか、そういう意味で唾液から取っている抗原という意味なののでしょうか。使い分けをどうされているのか、医療の立場からお伺いしたいと思っております。

【山本副市長】 いかがでしょうか。この件について院長先生がいらっしゃいませんが、事務局からお願いできますか。

【事務局(指定管理者)】 現状につきまして当院において実施できている検査について、抗原検査は院内で実施をしております。PCRに関しては、今は保健所からの受診調整等で依頼があった時に関しては、県の二次保健医療圏の方で検査をしていただいて、出させていただきます。

それ以外の当院の医師、あるいは紹介を受けて当院で受診をされた方の検査に関してはPCR検査を基本的に現状はどちらかと言うと咽頭をぬぐうよりは唾液での件数の方が多いと思いますが、それに関しても当院でPCRの検査を実施することができないので、外部のBMLという会社の方に委託をしております。どちらを先生方が選択するかということに関しては、抗原検査の場合ですと症状が発症から2～9日の間のみという限定がありますので、その中で抗原検査の場合でしたら、結果の方も15分で出ますので、どうしても急ぎで知りたいという患者様に関しては、2～9日という条件が満たされる患者様に関しては、どちらかと言うと抗原を優先して検査をしているように見受けられます。

それ以外の方に関して、特に行政等の検査に関しては、どうしてもPCRでの検査を要求されますのでそれに関してはPCRで外部委託、あるいは保健所、保健圏への提出という形で住み分けがされていると思います。

【城谷会員】 症状がはっきりいつ発症したかが分かっていたら、陽性期間が大体逆算できますのでその方法でいいと思います。ところが、なかなか保菌者と言うか症状がなくて運んでしまう方が若い人ほど多いということと、この立地条件が駅に近くて大阪と繋がっていると考えると、PCR検査と言うのは保健所から連絡があってするのだと思いますが、すごく重要だと思うし、医師の数、マンパワー的にも大変でしょう

から、おそらく看護師さんがすごく頑張っておられるかなと想像しております。

【山本副市長】 ありがとうございます。実際これは上半期のまとめですよね。この数字自身は。

【事務局(指定管理者)】 はい、そうです。

【山本副市長】 実際4～9月までですよね。10月以降というのはどうなのでしょう。やはり抗原検査が増えているのですか。

【事務局(指定管理者)】 比率的にそれほど抗原の方が増えてはないと思います。ただ、15分で結果が出るということがありますので、当然有症状の方で先程言ったような要件に当てはまるような方に関しては、急いで知りたいということもありますので、抗原検査は、今月に入ってからトータルの件数そのものが8、9月に比べると、倍以上の件数になっているのは事実です。件数の比率はPCRの方が増えていますが、当院は今月からランプ法が自前でできるようになりました。採取から大体、1日2回ほどしか回せないですが、ランプ法の時間等を考えて検査室で判断してどちらで検査をするかを考えております。

ちなみに件数は10月がPCR128件、抗原が49件、11月がやはり急増しておりまして、PCRが290件で、抗原が173件です。

【山本副市長】 ありがとうございます。私からこのページで課題の上のところ、面会の制限をされていて、今日も7階に上がってくる時に、エレベーターをどこから乗ったら良いかウロウロしてしまったのです。ああいう形できちっと分離をされているということで良いのでしょうか。また面会の制限に加えてお見舞いメールの運用と書かれているのですが、お見舞いメールの運用とはどういうことでしょうか。お見舞いができないから、メールで送っていただくようなサービスでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 当院に送っていただいてこちらの方で所定の様式に打ち出しまして、患者様に届けるというサービスです。

【山本副市長】 通常のメールであれば個人でもできると思うのですが、それが一旦病院を通さないといけないのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 いわゆるお見舞いメールと言うソフトのようなものがあり、フォーマットがありまして、患者様のご家族の方がそこにお見舞いということで文書を書かれる。それを上手く台紙のようなものに綺麗に印字されて、お手紙形式でお渡しできますので、そのようなサービスを色々と検討した中でまず始めています。

あと、今はWebで面会の方も予約制にはなり、時間も5、10分程度の短いものになりますが、Webでの患者様とご家族の方が面会できるようなシステムを構築、改修しております。

【山本副市長】 ありがとうございます。同じページですが13、14ページ安全管理マニュアルの策定のところから院内感染対策について、他にご意見はございますか。はい、山上会員お願いします。

【山上会員】 コロナに関して中間報告書を見せていただいて、数字は昨年と比べるとということ自体がなかなか難しい状況かと思えます。オンライン面会をやられているようですが、実際に入院されて家族と会えないので、どうしても認知症が進んだり、気力が落ちてきたりというのを非常によく聞きます。そして、在宅に移りたいということで在宅療養される方もおられます。これを解決するために色々と考えてみたのですが、なかなかないのです。オンラインでは、患者様と家族が実際に会われるのと大分違うみたいですが、そういう形で顔を見られることは良いと思えます。病状等の説明を聞くとご家族は安心されるみたいですが、そのような報告というのは、非常に手間がかかって大変かと思えますが、患者様の質問に医師とか看護師が答えていただくとか、話を聞くとご家族は安心されるようです。そういう点で考えがあれば教えていただきたいです。

【事務局(指定管理者)】 ありがとうございます。当院は面会を禁止しておりますが、ご家族の強い希望や、先生方の説明がある時には来ていただくなど柔軟に対応はさせていただいております。しかし一度に沢山の方が来られると困りますので、一人ずつ時間にしても10分以内など、制限を設けさせていただいております。また、ご家族の方が遠方であるといった事で来られない患者様に関しましては、病棟の方からお電話を差し上げて現状はこんな感じだと報告を定期的にさせていただくようにしておりますので、その辺りのクレームやご意見は今のところないように思います。

【山本副市長】 はい、ありがとうございます。良いのでしょうか。他はいかがでしょうか。ないようですので次のページに移りたいと思います。同じく病院のコンセプトの地域完結型の医療体制構築への寄与というページです。15、16ページ、それから17ページ、18ページもありますが、15、16ページにつきましてご意見いかがでしょうか。特にございませんか。続いて17、18ページの周辺の他の医療機関との連携につきましてはいかがのでしょうか。はい、佐野会員お願いいたします。

【佐野会員】 医師会との連携のことで課題がずっと出ていますが、なかなかすぐには難しいとは思いますが。小児科の先生も増えてきたことですし北和小児科の2次輪番体制など、小児2次救急医療の体制のバックアップなど色々協力できる場所があると思います。例えば、救急応需率を上げるなどそういうことの積み重ねで医師会の方の対応も変わってくると思います。今後もやることをまず続けていただいて良い方向に持っていくしかないのかと思います。時間はかかっても色々院長先生も努力をされていると以前にお聞きしましたので、今後も続けて行って欲しいと思います。

【山本副市長】 ご意見だけで良いのでしょうか。何か取組みたいなところで、事務局で何か説明できる点はありますか。

【佐野会員】 もしあれば、よろしく申し上げます。

【事務局(市)】 ちょうど報告書の資料18ページの中間報告の補足説明のところをご覧になっていただきたいのですが、毎月市立病院から医師会の方に外来予定表、当直予定表、オンコール表などを提出いただいております。情報提供を積極的にしていただいております。

【山本副市長】 佐野会員の方からもおっしゃっていただいていますように、医師会との連携。できれば医師会への入会も含めて色々と病院の方も取組みをしていただいていると思いますので、今後できるだけ市としては応援していきたいと思っております。他はいかがでしょうか。

では私の方からですが紹介率・逆紹介率のところで地域医療機関の市立病院利用率が1年前とかなり変わって、10%程アップしていますがどういう理由なのでしょうか。病院が頑張られたかなと思うのですが何か説明できる点はございますか。

【事務局(指定管理者)】 昨年度から医療連携室の人員を増やしまして、市内の診療所さま、施設さまを含めて毎月最低一度は訪問させていただいております。昨年度夏から病院だよりという広報誌も毎月定期的に出させていただいております。これも含めて広報活動が実ってきたかと思っております。

さらなる努力を今後も続けたいと思っております。

【山本副市長】 他はいかがでしょうか。はい、藤澤会員よろしく申し上げます。

【藤澤会員】 17ページの事業計画ですが高気圧酸素治療装置を院長先生が前回の時に設置すると言われていましたが、その辺のところの状況を教えていただけますか。

【事務局(指定管理者)】 今のところ順調に件数は伸びております。先月で70件あまりまで増えました。主な症例は、形成外科での難治性潰瘍を伴う末梢循環障害であったり、急性末梢血管障害であったり、この辺りは順調に増えております。ここ2ヵ月程、外科や内科から腸閉塞に対する治療が非常に短期間で回復されているということで腸閉塞についても症例が伸びてきています。院長からも近隣の病院さまにPRに行くようにという話もでておりますが、新型コロナウイルス感染症の関係で、今は行けておりません。

【山本副市長】 ありがとうございます。他はいかがでしょうか。ないようでしたら、新病院のコンセプトの救急医療の充実19ページ、20ページにつきましてご意見はいかがでしょうか。ありませんか。ないようですので、21ページ、22ページのところですが、同じ救急に対する人員体制、それから診療科毎の対応レベルのところで、ご意見はいかがでしょうか。それでは次にいきます。23ページに入ります。小児医療の充実、災害時医療の確保、予防医療の啓発、この3つの項目がこのページに入っておりますが、これをまとめて何かご意見等ございましたらお願いしたいと思っております。ないでしょうか。24ページにもありますように、小児科の外来診療については非常に念願であった小児科の先生に来ていただいたということで、この辺につきまして事務局から具体的に何か補足で先ほど説明していただいた点に加えて説明できる点はありませんか。特にないですか、分かりました。それでは25ページに入ります。市民参加による運営という点です。それから環境に配慮した運営、この25、26ページの内容につきましてご意見はいかがでしょうか。特にないようですので次に参ります。

最後になりますが27ページの収支のところでご意見はございますか。収支のところにつきましては私達が見たらこれだけ減って大変かなと思ったりするのですが、この辺のところで今後どうなるかと一定の予測のようなものをお持ちですか。

【事務局(指定管理者)】 外来は患者数も日当円も計画に近い数字が出ているのですが、入院患者が135人でないと医業収益でプラスに移行しない。これは本部からも強く言われています。それに向けて人員も含めて3月までに看護師数も増やして、最低でも135人の入院を目指すということで今、動いています。

今回のコロナの疑似症病棟を開けたということで、空床保障についても今月に6ヵ月分、空床保障の補助金が入ってきますので経営的にはほっとしたというか、そういうのもあるのですが、今後陽性患者の受入れに対して1病床を専用病棟にしますのである程度の見込みはあるかなと思います。

【山本副市長】 コロナとの関連ということにつきまして色々と思われているところもあるでしょうし、やはり入院患者の関係においてはかなり色々な点でご苦労があると思います。最近テレビを見ておりましたが、「看護師さんの募集をしてもなかなか来ていただけない」とか、「離職率が高い」ということにつきましては、市立病院では、いかがでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 今、当院で必要な看護師さんの数的には患者数大体125人位までの看護師の数となっております。今後増えてくることも予測されますので現在募集活動をしているところです。離職率につきましては非常に下がってきておまして、9月現在まででは約7%位ということで12月の退職も今のところ3名程しか出ておりませんし、在職の看護師は落ち着いているところかと思えます。次年度は助産師3名、看護師17名の募集を考えていましたが、今のところ全てに内定を出すことができています。看護はそのような形で安定していますが、一番難しいのは看護補助者です。その方々の採用が非常に難しいところで苦慮しているところです。

ただ、今回コロナのことで一番大変かなと思っているところは、やはり看護師でも小さい子どもさんがおられる方とか、ご家族に高齢の方がおられるとか、そういった方々に関してはコロナに関連するところで勤務するのを非常に抵抗されるところがありますので、コロナの疑似症の病棟であるとか、今後コロナ陽性患者のところ働く看護師の負担が大きくなっているところが、どんな感染症を持っているのか分からないというところで今まで看護師は働いてきたので、今回のコロナに関しては特別に恐怖を感じているというところは、一般の方々と同じかを感じているところです。

【山本副市長】 そうですね。市の方でも、4月に生駒市消防で新型コロナウイルス感染症専属の隊員のチームを作りました。市でそういうのができたら良いなという話をしていたのですが、隊員の中からそういう声が出てきて、おっしゃる通り家族との関係など色々考えて、一時は一か所で一緒に寝泊まりして家に帰らないという、特に4月、5月の段階ではコロナの状況というか、傷病がどれくらい移っていくのか分からないというのがそういうことまでして頑張ってくれたということでしたし、やはり一番医療の最前線にいる方は家族もいらっしゃいますし、その辺の対策というのは大事かもしれません。

最後までいってしまいましたが、最初に言いましたとおり全体を見渡した中で何かここでこういうことを言い忘れたなど、全体を通してこんな意見があるなど何でも構いませんのでありましたらお願いしたいと思います。

それでは、岡島会員お願いします。

【岡島会員】 広報関係に関してですが、7ページに書いてあるのが一番近いと思うのですが、市立病院では、TwitterとFacebook、また今回公式LINEのアカウントを取られており、ホームページ、紙媒体では病院だよりを出していると思います。公式のLINEのアカウントを取ったり、市役所で案内を置いていたり色々されており、現在458人の方が公式LINEに追加されているような状況と思いますが、徐々に見ていただいている方が増えていると思います。病院の方では例えば来やすい病院というか、是非行ってみようということで、こういうLINEとかの広報活動でまた行ってみよう、こんな病院なのだというのが増えていると思います。これをまた広げていくのはある程度のところに来ると市民の方が口コミで広げていって、また追加してみよう、追加して情報をみようなど、どんどん増えていくのではないかと考えています。

今日もコロナのことで小児科のことについて載せていたと思いますが、「熱の高い方とか前もって連絡を下さい」など、例えば小児科に力を入れているのであれば、お子さんのいる保護者の皆さんにもっと知ってもらえるような方法を取ってほしいと思います。

確かに今はコロナのことで大変な時でまだまだこれから忙しい時ですので、少し落ち着いてからというのもあるのですが、例えば動画やYouTubeでも今は色々なお医者さんがあげていると思います。そういうものも安心感を得る一つかと思えます。例えば小児科に行く子ども達が、「ここだったら行ってみよう」と思えるような、また保護者の方はどうしても子どもを病院に連れていくのにやきもきしてなかなか連れて来られなかったりもするので、何か安心できるもの。ぜひ行ってみようと思えるものがLINE以外の何か動画であったり、病院をアピールするようなものであれば。なかなか映像にするのは難しいと思いますが、それができるのならば色々なことで効果を得られないかと思えます。

高気圧酸素治療の話もありましたが、どこかの病院にアピールしに行かれる、でもコロナで行けない。そこで、例えば映像を見て下さいということであれば行かなくて良い訳だし、そういうここでやっている特色をもっと広報活動をされていく。既にLINEとかでされてきているので大分周知はされていますが、その中で院長先生が無輸血で手術されている映像を載せて、こういうことをされているというのを見て初めて分かっていくようなことが安心に繋がるのではないかと考えています。是非、これからは新しい方法での広報を考えていただけたらとお願いを申し上げます。

私も病院が嫌いですしなかなか行けない。歯医者とかもトラウマで行けなくて。できたらもうちょっと早く動画があったら、それを見て「今だったら行っているなあ」と。それが結局行けなくて、手遅れがちになって、多くの歯が抜けてしまったのです。病気は早い時に見つかる方が良いわけですので、そういうのも医療に対する、「早く見つけたら良いよ」というアピールなど、文章でなかなかできないものがあると思うので、映像でできたら、より良くなるのにという思いです。今すぐにはできないと思いますが、一つ考えていただけたら市民にもまたアピールできるのではと思います。

【事務局(指定管理者)】 どうもありがとうございます。動画も今は色々考えておりました、まず院長の紹介動画を作りかけております。

【山本副市長】 ありがとうございます。PRは大事ですので、どんどんPRしてもらったら良いと思います。私は去年に腸閉塞になった時に、あと1年待ったら良かったなと思ったのですけど。

【岡島会員】 もう一つだけよろしいですか。私は生駒市PTA協議会の活動をしているのですが、院長先生に理事として真弓小学校区から来ていただいています。新型コロナウイルス感染症で、どんどん活動が下火になって、もうやめにしようとなっているところを、院長先生は一人手を挙げて淡々と新型コロナウイルスの恐怖心を取っていただいた。コロナとって何でも自粛してしまうとそれが恐怖に変わるので、コロナだからとって何もしないのではなくてもっと賢く勉強して、みんなが共に生きていける何かを作っていくとどうするのだというようなことを言っていただきました。今は院長先生の言葉で前を向いているので、そういうのも動画じゃなくても市民の皆さんに声掛けできるような、文章でも良いので、それもPRの一環なのかと思います。また一つ考えていただけるようにお伝えいただければと思います。

【山本副市長】 ありがとうございます。他はご意見いかがでしょうか。浅岡会員。

【浅岡会員】 父がこちらの病院の外来でお世話になっておりまして、診療が終わってから1階の受付のところで精算機の紙詰まりがよく起きるのです。よく故障するというので、先日も父が帰ってきて「これで3回目だ」と。紙詰まりで、ずらっと機械の前で皆さんがすごく並ばれる。先日すごく高額な機械だと伺いましたので、メンテナンスも良くされた方がよいと思います。

【山本副市長】 それにつきましては業者に委託されているのですか。紙詰まりの原因は何かあると思いますので、また調べられてできるだけトラブルのないようお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。他はいかがでしょうか。ないようでしたら意見交換については以上とさせていただきます。最後にその他の項目もごございますので、会員の皆様から今日の議題、案件を外れて何か言っておきたい点があればお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。ございませんか。

それでは事務局の方から何かございますか。はい、お願いいたします。

【事務局(市)】 本日は素晴らしいご意見をいただきまして、ありがとうございました。この令和2年度の間接報告書につきましては、12月の議会で報告させていただく予定ですのでよろしくお願いいたします。次回の会議でございますけれども3月頃を予定しております。案件といたしましては、令和3年度の年度事業計画案です。皆様のご意見をいただきたく思っておりますので、よろしくお願いいたします。事務局の方から以上でございます。

【山本副市長】 それでは以上をもちまして令和2年度生駒市立病院管理運営協議会第2回会議を終了させていただきます。みなさまのご協力を得まして、無事、終えることができました。どうもありがとうございます。12月に入りまして、皆様にはお体の方にはご留意いただきまして、新しい年を迎えられますようお願い申し上げます。本当にどうもありがとうございます。市長には今日の会議の内容は報告させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

— 了 —